



- 表紙「秋の一日」 -

土手に生える彼岸花やススキが、秋の静けさを感じさせていました。

第6回 日野川フォトコンテスト入賞作品 一般Bの部 佳作 橋本 敦子さん
撮影場所：溝口町

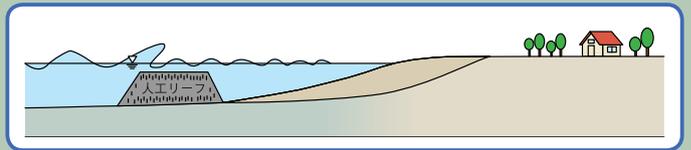
日野川流域 ものしり手帳

日野川、 もの知りさんに聞いてみよう・17

人工リーフ

「人工リーフ」は、自然の珊瑚礁さんごしょうをまねた構造物です。沖縄の海などにみられる珊瑚礁は海岸付近で幅広い浅瀬をつくります。波は水深が浅くなると砕けて、その勢いを失います。珊瑚礁による浅瀬が沖まで広がり、遠浅になっていますから、沖の方で波が砕けることとなります。すると、波が小さい海域を広くとることが出来るので、海水浴などに利用しやすくなります。人工リーフは、このような珊瑚礁のもつ優れた消波効果しょうはを期待して開発された構造物なのです。

人工リーフは、自然の珊瑚礁の形を石やコンクリートブロックなどで再現してつくられます。つまり、海の中に広いマウンド人工的に作った台形状の浅瀬をつくることとなります。その結果、景観を損なわず優れた消波機能を得ることに成功したのです。また、その他にも人工リーフが魚礁ぎょしょうと同じ効果を発揮し、魚介類の生育いしゅつや蛸集魚が集まる効果を発揮することが知られています。



しかし、この「人工リーフ」にも欠点があります。それは、波を砕くためにはかなり大きなマウンド人工的に作った台形状の浅瀬をつくらなければならないことと、海面とマウンドとの間の水深によって波を砕く能力が変わるということです。つまり、干満の差が大きいところでは、利用しにくいということです。

また、水面に没した構造を有しているために、景観的には優れていますが、漁船やボートからは確認がしづらく、座礁ざしょうなど海難事故の原因となることもあります。そのため現在では、人工リーフにはその存在を表す潜堤標識せんていひょうしきを設置するのが一般的となっています。夜見・富益工区に施工した人工リーフには写真のような潜堤標識灯を設置しています。



潜堤標識



人工